中春別小学校
学 校 便 り

窓

第 8 号
発行責任者 校長 若 松　　正
令和5年10月31日発行

自然に触れて深く感動する気持ち

生活科や図工で、身の回りにあるものを使って作品づくりに取り組んでいるのを見かけます。

たとえば落ち葉を使った作品づくり。数枚の落ち葉と色画用紙の組み合わせが“いぬ”になったり、“ちょうちょ” になったりと、子どもたちの発想は無限大。完成した作品の中で、耳や羽根になった落ち葉たちは、まるで生まれ変わって新たな命を吹き込まれたかのようです。

子どもたちはいろんなものを見つけるのも得意です。燃えるように真っ赤だったり、虹のように七色に染まったモミジの葉っぱを見つけてきたり、両手でも覆い隠せないくらい大きな葉っぱをどっさり詰め込んだレジ袋を提げて登校してきたり。そんな自然の落とし物をくれるときがあるのですが、宝物をお裾分けしてもらったような気持ちになります。

実験や観察をしているのを見ていても、子どもたちの不思議発見には感心します。ある学級では筒にスポンジをつめて飛ばす空気鉄砲を用いて、空気の性質について学習していました。どのようにしたらより遠くにスポンジの玉を飛ばすことができるのか、スポンジが飛び出すときの玉が低いときと高いときの違いはなぜ起きるのか、１つだけのスポンジを飛ばせたり飛ばせなかったりする違いは何なのか。などなどなど…たくさんのクエスチョンマークを見つけた声がところどころから聞こえます。そうして、筒にスポンジを詰めては飛ばすことを繰り返すうちに、「わかった！」「〇〇かもしれない！」というクエスチョンに対する答えや手がかりをつかんだときの嬉しそうな声がたくさん聴こえてきました。

また別の教室で、“てこ”のはたらきについて学習している場面で、実験を演示して見せたり子どもたちに操作をさせていたりする先生の一挙手一投足をまばたきする間も惜しむように見つめながら追いかけ、しきりに相槌をうっている子どもの姿を見かけました。“てこ”という自然の力に魅了され、夢中になっている様子が伝わってきます。

学校では、子どもたちに“学びに向かう力”を身に付けさたいと考えています。子どもの頃は誰しもがもっていた、新しいことを知る喜び、不思議を発見する楽しさ、なにげない風景から新しく何かを創造しようという心持ち。その心持ちは学びに向かう力の根っこになるものです。だからこそ丁寧に受け止め、伸ばし育んでいかなければと感じます。感動する気持ちが色あせてしまわないように。

お便りを書いていたら、子どもからもらって付箋にはさんでおいたクローバーのことを思い出しました。地面を覆いつくすシロツメクサから易々と四つ葉を見つけ出す姿に感心した覚えがあります。

それにしても、いろんな場面で目にする子どもたちのセンス・オブ・ワンダー（自然に触れて深く感動する気持ち）には舌を巻きます。

日中のあたたかな日差しについ忘れがちになりますが、露と霜が繰り返しのようにフロントガラスに降りる様や登校時にボッケからカイロを取り出して見せてくれる子どもたちの様に、袖を風が過ぎる秋も終りに近づいてきていることに気付かされます。

もうしばらく今の季節のままでいてくれたらいいのになぁと思う今日この頃です。

朝晩の冷え込み厳しくなる頃、どうぞお体にご留意いただければと存じます。